

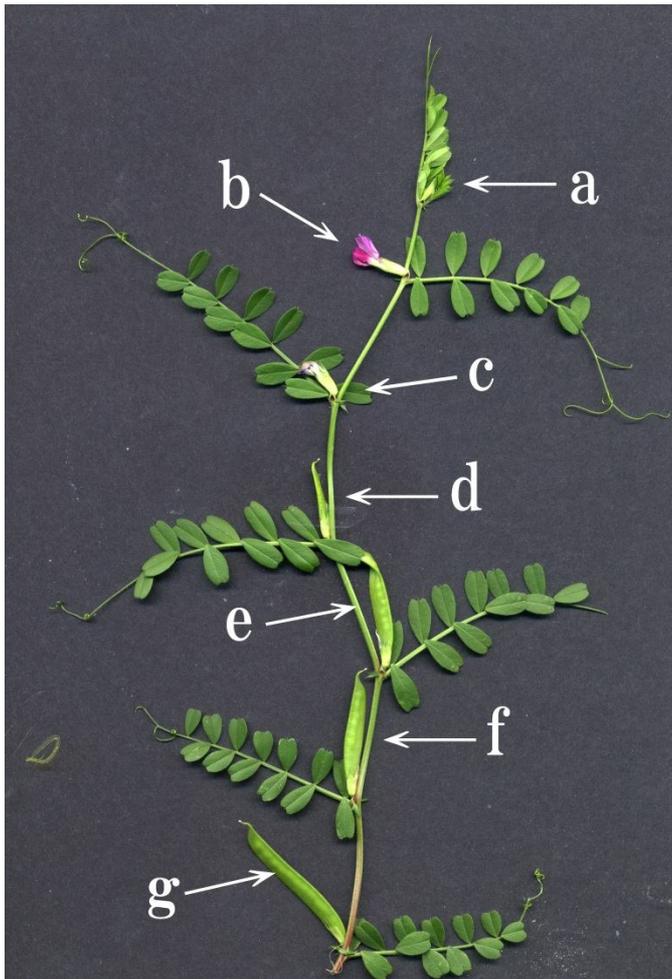
「カラスノエンドウを探究する(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

数ある「雑草」の中でも、「カラスノエンドウ」は非常に教材性が高いと思う。カラスノエンドウ(烏野豌豆)の正式な植物名は、「ヤハズエンドウ」(矢筈豌豆) *Vicia sativa subsp* といい、マメ科ソラマメ属に分類される。



写真は、カラスノエンドウのほぼ全景である。下のほうほど成長していて、上のほうほど若い。

a; 花のつぼみ b; 開花中の花 c; しぼんだ花  
d; 花卉が落ちた状態 e~g; 果実の成長過程

花から果実への変化を、1本のつるで、これほど実感できる雑草はほかにないだろう。カラスノエンドウは「優秀な雑草」なのである。

カラスノエンドウは、ごくありふれた雑草なので、公園や道端にいくらかで見つけることができる。本校のある大学構内にも、ほとんど無尽蔵に繁茂している。



大学構内には、いたるところにカラスノエンドウが繁茂しているが、特に南門の近くの講義棟の裏側が一番多い。少し傾斜した日当たりの良い草地だ。



カラスノエンドウは、巻きひげがあるので、本来は他の植物や地上物に巻きついて成長する。しかしここにはカラスノエンドウしかないので、お互いにかからみ合って、根元すらわかりにくい。



子どもたちは「完璧な標本」を求めて、探索を始めた。しかし、これがなかなか難しい様子だった。